



給食だより

東京農業大学稲花小学校
発行日 2023年5月25日
発行人 校長 夏秋啓子
栄養教諭 梅本葉月

新年度が始まり、早いもので2か月が経とうとしています。

廊下で児童にすれ違ふと、「いつもおいしい給食をありがとうございます」と丁寧にお礼を伝えてくれることがとても嬉しいです。「私(僕)は〇〇(料理名)が好きです。また出してください」というリクエストの声もあります。

昼休みや下校時に、こちらから「今日の〇〇のお味はどうだった？」と尋ねると、嗜好にあった時は、満面の笑みで「おいしかった」と伝えてくれます。一方で、不評だった時は、雲行きの悪い表情で、「う〜ん」と答え、「まさかった」と言葉にせずお茶を濁してくれる優しい子どもたちです。

アフターコロナの給食

新型コロナウイルス感染症の分類が5類になりました。これまで、配膳中や下膳中も含め、一言も私語は許されなかった環境から、マナーを守り、隣の人に声が届くくらいまでの静かなボリュームなら話してよいことになりました。(校内で感染症流行の兆しがあるときは黙食です。)

やはり、歓談できることは、とても嬉しい様子で、笑顔で食べる姿が生き生きとしています。

とは言え、口の中に入ったまま話したり、離れた席の人まで聞こえるような大きな声で話したり、食器を持ったまま後ろを振り返って話したりするなど、マナーとしてふさわしくない食べ方はこれまで通り厳禁です。

身体が大きくなった5年生は、「声の大きさも大きくなって、にぎやかになってしまうかもしれない」と心配していましたが、騒音計で教室の音の大きさを計ると、一番静かだったのは5年生でした。声のボリュームに気を付けるということが徹底されていて、さらに、食器にお箸が当たる音まで聞こえないくらいマナーよく食べていました。



騒音計

6月4日～11日 歯と口の健康週間

6月4日を「むし歯」と読ませた語呂合わせで、「歯と口の健康週間」が始まります。

よく噛んで食べると、唾液が出てむし歯を予防するだけでなく、消化を助けたり、あごや口の周りの筋肉の発達を促したりするなど、健康に良いことが、たくさんあることが知られています。^{※1}

黙食だったコロナ禍では、おしゃべりができない代わりに、素材と向き合って、ゆっくり噛んで味わう時間としていましたが、ほとんど噛まずに飲み込んでしまう人もいます。

給食でも、パワーポイントで、「この料理に使われている調味料は何でしょう？」とクイズにしたり、「1口につき20回は噛んで」という呼びかけをしたりすることで、よく噛んで食べることができるように工夫をしています。

ぜひ、ご家庭でも、食材や調味料を当てるクイズをして、しっかり噛んで食べる癖をつけてください。

※1 農林水産省ホームページ 食育の推進

https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/plan/4_plan/togo/html/part6.html

端午の節句

ゴールデンウィークに入る前に、こどもの日にちなみ、給食室で笹の葉でおこわを包み約400個の「中華ちまき」を手作りしました。

1年生は、給食でちまきを食べるのが初めてなので、上手に笹の葉からおこわを取り出して食べることができるか心配しましたが、箸使いがとても上手で驚きました。

笹の香りがほんのりとおこわにうつり、風情のある一品ですが、1年生は初めて経験する味と香りに戸惑う児童も多かったようで、食べ残しが多くみられました。

一方で、4・5年生は、手慣れた手つきで、ほとんどの児童が完食。1年に1度ですが、毎年繰り返し提供することの大切さを感じました。



日本の食卓こんだて 広島県

5月19日に、G7広島サミットの開幕に合わせて、広島県の名産品「たこめし」と「レモンチーズケーキ」を提供しました。

この日は、献立を予め確認していたと思われる子どもたちが、「今日の給食は、G7に合わせたのですか?」と、朝から次々に質問に来て、関心の高さに驚きました。



5月19日(金)の献立